

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	○1 学期末に実施したアンケートの結果は、以下の通りであった。 【自分に関する項目】 (1)教科書ノート等教材の準備は 94% (2)家庭学習や提出物等への取組は 73% (3)授業に集中して取り組むは 85% (4)授業に積極的に取り組むは 69%の生徒が、それぞれ「大変良い」「良い」と回答した 【結果から読み取れる課題】 (2)提出物等については 37%の生徒が十分に取組めておらず、意識も意欲も習慣も全く身につけていない生徒も数名いる。 (3)集中度については 15%の生徒が授業に集中できないと回答している。 (4)積極性については、31%の生徒が、発問・発言・ノートへの取組みが不十分だと回答している。 (2)(3)(4)に共通して、主体的に学習に取り組む姿勢や習慣を定着させるための指導を更に工夫することが課題であると言える。	○提出物・家庭学習については生徒が取り組みやすい内容や方法、評価法などを工夫することで意欲を高めさせる。また、睡眠の確保などの生活習慣も意識させ意欲を高めさせる。 ○集中度・積極性については、段階的な発問を工夫し成功体験を繰り返し味わわせ、達成感や充実感を体験させることで興味関心を広く深いものにして、学習意欲を高めさせる。 ○毎時の授業では、開始時には本時の学習目標を確認させ、終了時には振り返りを記入させることで見通しをもたせ、学習意欲を向上させる。 ○授業の開始時に、前時のノートを確認させて学習内容の復習をするとともに、家庭学習や試験勉強の際に効果的に活用できるかを考えさせ、より良いノート作りへの意欲を高めさせる。 ○漢字、語彙、基本的な文法など読解に必要な技能を繰り返し学習させ、文字で表現された内容を確実に読み取ることで著者の思いを理解し、自分の思いを深める指導を工夫していく。	
社会	○基礎的基本的な知識の定着度に差が見られる。板書を写すことなど、「書く」ことに課題のある生徒がいる。 ○個人で思考したことを、対話的な学習を通して深めていくことに課題がある。	○授業の最初に、前時の復習を、プレゼンテーション資料等を活用して行う。問題集を活用し、定期的に提出させて基礎・基本の定着を図る。書く事に関しては、重要語句を中心に書くことができるように声かけをする。 ○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、小グループでの話し合いでは、個人の意見を発表して終わるのではなく、ファシリテーターの生徒を育てることで思考を深めることを意識する。	
数学	○基本的な知識や技能の定着度に差があり、受動的に取り組んでいる生徒が多く見られる。 ○計算力は身につけていても、なぜそうに考えたのか等、論理的に考えたり、伝えるたりする力に課題がある。	○習熟度別授業を展開している中で、基礎クラスでは反復練習の時間を確保すること、定期的に小テストを行うことで基礎学力の定着を図り、自信をつけさせる。 ○習熟度別授業を展開している中で、発展クラスでは発展的な問題を扱い、グループ学習や発表を行うことで、考えたことを言語化していく練習をする。	
理科	○実験をする能力はあるが、実験後の考察を書く能力に課題のある生徒が多い。 ○板書を写すなど、書くことに課題のある生徒が多い。	○実験の説明をする際に実験結果のどこを見て、どのように考えればいいのかを伝えて、少しずつ考える力をつける。 ○色を変えているところだけでも書き写すように伝え、少しずつ書くことに慣れさせる。	

音楽	○主体的に学習に取り組む態度に差が見られる。 ○音楽の構造についての知識や音楽の要素を知覚・感受する力に差がみられる。	○歌唱表現活動では変声期や苦手意識のある生徒に配慮し、毎時間決まった呼吸練習と発声練習を行い、手で音程を表現してから声で表現して技能を高める。 ○表現の工夫や楽曲のよさについてプリントで個人が見出したことを書かせ、グループや全体で共有する。	
美術	○意欲的に表現の活動に取り組む生徒が多いが、落ち着いて制作に取り組むことができない生徒が一部見られる。 ○積極的で、作品をよくしようという意欲は感じられるが、自分で考えて表現方法を模索したり、試行錯誤したりする力が弱いと感じた。	○安全上の注意や動きの指示を十分に行う。話しを聞く姿勢を作って説明する。交流の時間と集中して制作する時間のメリハリをつけるため、作業内容の細分化や目標の視覚化をする。 ○制作において考えたことを記述する課題を増やし、何となく制作することがないようにする。また、生徒が試行錯誤しやすいように、技術や知識の習得を充実したものにする必要がある。	
保健体育	○体を動かして楽しむことができる生徒が多いが、協調性（集団行動・話を聞く態度・仲間の意見を受け入れる姿勢など）に欠ける生徒も多い。 ○体を動かすことや運動（スポーツ）に触れることが少ない生徒・家庭が多くなってきているため、知識・技能に差が出る場面が見られる。 ○自己表現に課題があり、思考力・判断力・表現力に繋がる基礎を身に付ける必要がある。	○グループ活動を多く取り入れ、運動時間の確保をしながら、様々な人と関わって仲間を受け入れる機会を増やす。 ○学習カードを利用して、単元ごとに必ず、競技の特性や知識の確認と理解をさせてから、運動活動を行うようにし、協働学習しながら、深い学びに繋げる。 ○学びの定着を目指し、特性に触れた反復的な技能実践と応用的な活動を混ぜながら、学び合い活動を楽しむことができる場面を増やす。	
技術家庭	○各自、考えや気付きはもてたが、全体で共有し、主体的な内容に繋げる時間が不足した。 ○全体の課題は共有したが、それぞれの課題設定ができなかった。	○話し合いや発表の時間を、ゆとりをもって確保する。 ○個々が課題設定できるように、単元ごと最初の1時間を活用して工夫した導入授業を行う。	
外国語	○英語の並べ替え問題や選択肢問題では高い正答率を示すが、英作文や英単語ではスペルミス、ピリオドなし、カンマなしが目立つ。一般動詞とbe動詞が混ざっており、使い分けに苦戦している。また、疑問文になると、正答出来る生徒が減っている。 ○教科書のリテリングはよく出来ている。英語を聞ける・話せるが、文字として書けない。	○英単語の発音や意味だけでなく、スペル・カンマ・ピリオドのチェックに費やす頻度を増やすために「見直しをしたか」声かけをする。 ○一般動詞とbe動詞の肯定文・否定文・疑問文の型を覚えてもらえるように繰り返し問題演習をする。2学期からは3人称単数現在形も登場するため、主語と時制を意識させ、3単現のsと複数形のsを混同しないように指導する。	